

第2回港区台場シャトルバス運行事業候補者選定委員会議事録

会議名	第2回港区台場シャトルバス運行事業候補者選定委員会
開催日時	平成28年10月11日（火曜日）午前10時00分から午後12時03分まで
開催場所	港区役所5階512会議室
委員	（出席者）高橋委員長、坂本副委員長、森本委員、寺内委員、西川委員
事務局	土木課 地域交通担当
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1)財務状況分析結果について (2)一次審査結果について (3)二次審査の事業者決定 (4)二次審査の進め方について 3 その他 4 閉会
配布資料	資料1 財務状況分析報告書 資料2 資金計画分析報告書 資料3 港区台場シャトルバス運行事業候補者選定一次審査集計表 資料4 「港区台場シャトルバス運行事業」候補者選定（一次審査） <div style="text-align: right;">結果通知書</div> 資料5 港区台場シャトルバス運行事業候補者選定二次審査進行案 <div style="text-align: center;">（プロポーザル方式）（案）</div> 資料6 第1回港区台場シャトルバス運行事業候補者選定委員会議事録

会議の結果及び主要な発言

【委員長】 【事務局】	開会等 （開会の挨拶。） （配布資料の確認と各資料の説明。）
【委員長】 【公認会計士】	審議事項（1）財務状況分析結果について まず事業者の財務状況分析の結果を、公認会計士の方にご報告させていただきます。 （資料1、資料2の説明と報告）

【委員長】	ありがとうございました。それでは以上について、質疑応答をお願いします。
【委員長】	収支の収益見込が劇的に増えていますが、資本計画では根拠とか会社の考えの説明がもっとあっても良いと思ったのですが、これはどう考えたら良いですか。
【公認会計士】	利用人員の増加は未来の数字ですが、人口も変わらないし劇的な増加は無いと思います。サービスの質については事業者の考えに気を付ける必要があります。一般的に事業を何としてでも取りたいのであれば必死になっている面は否定できません。
【委員長】	この事業者は規模はそんなに大きくない印象ですが、資料を見ると売上がここ数年劇的に良くなっているのですが、何か事情があったのかどうかですが。
【公認会計士】	利益が上がっているのに、悪い増加ではないような気がします。
【委員長】	5年間の途中でアウトになってしまうと困るので、それだけは心配しています。
【公認会計士】	30億に対する1億5千万は小さい数字ではないので、一生懸命やると思います。
【委員長】	補助金が初年度に多く入っているので、途中でアウトになるリスクが心配です。
【公認会計士】	補助金の総額を第一に考えているかも知れませんが、補助金は年ベースで右肩上がりです。
【委員長】	運賃の上昇にだけ依存しているが、根拠が分からないので、心配しています。
【公認会計士】	取りたい面があまりに強いならば、熱意を注意して見た方が良いかも知れませんが。
【委員1】	確認ですが、補助額の5年間合計の1億を少し切る数字で合わせた感がありますが、この企業に決まった場合、この額は運賃収入を問わずお渡しするのでしょうか。
【事務局】	年度毎の提示された赤字額が限度額になります。実際にやってみて、年度が終わって決算後、それより少ない赤字額で済んだ場合は、その金額を出します。
【委員1】	先方が要求できるのはこの金額が上限で、赤字額がこれより多くなった場合も、このサービス水準で事業を続けることをお約束するのですね。運賃収入の見込額は年々変わってきますが、このフレームを変えないのは双方にリスクがありますね。
【委員長】	一番心配なのは、赤字超過で万歳され、区が住民への責務を果たせなくなること。
【委員1】	逆も有り得ますね。最初の年から黒字だったら、区から補助金が出て行きません。
【公認会計士】	ただ、今は万歳するほど苦しい会社ではないと思います。
【委員1】	経常的に赤字ならば5年間均等で補助額を組む方が事業者のリスクは小さいです。
【公認会計士】	そうですね。そこをなぜこうしているのか、本当に見込まれると真剣に考えているのか、事業を取りたいという思いが強く出過ぎているのか、どちらなのかですね。
【委員長】	あと、資料1と資料2の評価が違うのはなぜですか。
【公認会計士】	財務分析の方は、今までの蓄積により定量数字を使っているため、評価は数多くある企業の中での位置という評価で「C」。資金計画の方はこの会社だけの評価で、すごく良くも悪くもないので「B」。資料1と2は全く別の意味を持っています。
【委員長】	収支見込の妥当性が「問題なし」となっていますが普通の企業はこんなものですか。
【公認会計士】	通常の企業は利益を出しますが、この企業では赤字額が補助金になっていて、異常に利益が出ると補助金が要らないことになるので、その意味でバランスが取れているとの評価になります。しわ寄せが来る管理費や本社経費などの一般管理費の支出合計が、1億7千万に対して1千2百万位と7%で、割合はそんなに高くないです。
【委員長】	それでは、公認会計士はここでご退席されます。どうもありがとうございました。
	審議事項（2）一次審査結果について
【委員長】	次に一次審査の集計結果についてですが、その前に合格基準点を決めたいと思います。元々複数の事業者が提案してくることを想定していたため、前回の委員会では相対評価で順位を決めることが主眼となっていましたが、実際は1社のみという想定外の事態となったため、絶対評価による判断をせざるを得なくなりました。

【委員 3】	基準がある訳ではないのですが、一般的に指定管理などのプロポーザルでは100点満点にして50点から60点あれば優秀であると、目安にしているようです。
【委員 1】	全問が標準である評価3だった場合の合計が100点満点で60点になりますね。
【委員長】	では100点満点で60点を合格点にしてはいかがでしょうか。
【各委員】	(了承)
【委員長】	では、一次審査の集計結果について、事務局からご説明をお願いします。
【事務局】	(資料3を説明し、提案者番号2番が合格基準に達していることの報告を行う。)
【委員長】	事務局が採点した9番・10番が、配点25点のところ5点と、非常に厳しい点数が付いているのですが、それはどういうことですか。
【事務局】	前回の委員会で承認いただいた評価基準に照らし合わせると、評価1になります。始発と終発の時間帯延長に過大な期待を持ち過ぎました。実際の提案が現行通りであったため、現行通りを評価1としたところにこの設問の厳しさがありました。
【委員長】	現状どおりを評価1としたのは少しくつかったかも知れませんが、3にするとか。
【委員 3】	9番・10番については、委員長のご指摘のように変えてもいいと思います。
【委員 2】	現実的には1社しか出てきていないので、恐らく点数を変えたとしても最終的な結論に大きく響かないのならば原案のまま審議を続けてはいかがでしょうか。
【委員長】	では配点は、このままでいきましょう。
【委員 2】	例えば、始発時刻をもう少し早くしてほしいというニーズは、かなりありますね。
【事務局】	利用者アンケートの自由回答欄では、23時台や6時台の要求が確かにあります。
【委員 2】	ただ逆に、お客様が乗らないのに便数が増えてしまうこともあり得ます。
【委員 1】	前回資料の利用者推移予測表とこの提案の数値とを、見比べたいと思います。
【委員 3】	この表は、これまで毎年10%以上伸びてきたため、今後10%で伸びる場合の直線とその半分の5%の伸びの直線を目安に、区が区内で説明するために出した数字です。その意味でこの事業者は、この黒字達成ラインと書かれている75万人弱位の数字を5年目に出しています。確かに5%や10%ずついくかという議論はありますが、これまでの流れで見る限り、別の要因で増えることもないとは思いますが、認知度が高まることによって、10%以上伸びる可能性はあると思います。
【事務局】	少し補足しますと、今年の4月から9月まで半年間の乗客数の実績はほぼ30万人で、599,614人という28年度1年間の予測のほぼ半分になっています。
【委員長】	では、資料3について、順番に委員の方の考え方のご説明をお願いします。
【委員 2】	全体的に非常に簡潔に書かれており、一般的、標準的だと思います。不安な点として、収支内訳で5%ずつ増えていく数字が5年間で達成される見通しですが、順調に増える対策が不十分と感じ、18番は評価2を付けました。もう少し採算性向上に向けた施策の提案があっても良いという気がします。
【委員 1】	18番の経営計画は、前回の資料で線型で伸びている事務局の予測に対して提案者は指数カーブで上がり、それに伴って補助金額が急激に少なくなる予測をしているので、普通よりも大きな努力をしていくことを好意的に捉えて高く採点しました。
【副委員長】	募集要項で求めているものは概ね提案されており、優れたものであったため、評価4がほとんどとさせていただきました。改善計画を見ると、田町ルートと品川ルートの統合が出されたことに対して、その内容自体を全面的に支持している訳ではないですが、現時点ではそういう提案をしてきた事実を客観的に評価しました。
【委員 3】	私は、初年度に車両購入費7,500万円の補助金を計上されたことに疑問が残りました。
【委員長】	3台分の車両購入費の上限に対して、実際の台数はどこで誰が決めるのですか。
【委員 3】	基本的には区だと思いますが、プロポーザルの段階で確定できる話ではないです。

【委員長】	必ず出る訳ではないことを相手が理解していても、車両費を貰わないと事業ができないと降りられるリスクがあるので、二次審査の時にそれを訊くことにします。
【委員長】	私は各項目が普通であれば評価3、努力しているなというのは評価4としました。残念ながら特段素晴らしいところは無かったです。18番目の収支計画は、収入が一方的に増加することについて根拠や考え方が示されておらず、全てこの数字に依存しています。事業を取りたい気持ちが強く、楽観的でリスクが多い気がしました。
【委員長】	では、委員間で評価が2ランク以上違う項目について十分議論して合意を取りたいと思います。まず14番の「繁忙期の対応」について、ご意見をお願いします。
【委員2】	対応します、と記載されているものの、具体的実績や工夫について記述が不十分で、実現できるか不安を感じましたので、評価を下げています。
【委員長】	点数の分布のバランスは、各委員の考え方を整理してあれば結果には影響しないので、変える必要はありません。他に意見はありますか。
【委員1】	私は、確かに記載内容から全く読み取れないので、現実的な問題が出ていなければ良いのではないかと言う位の感じで、評価4を付けさせていただきました。
【委員3】	私も、現実的な問題がないため、少し高めの採点になっています。
【委員長】	私は、他との比較ができないため、ここでは3にしました。
【委員長】	次に18番の「事業採算性向上に向けた施策」ですが、いかがですか。
【委員2】	収益が上がるのが前提で新しいアイデアが分かりません。ルート統合では経費の削減による収支の改善を述べるべきだと思いますが、実現のプロセスに関する踏み込んだ提案がなく、実効性が読み切れないため、低い評価をさせていただきました。
【委員長】	私も2にしました。運賃収入の増加についての予測や考え方が全然ありません。ただ数字が載っているだけで、非常に心配で、納得できる資料がなかったのです。
【委員1】	私は今までの事業の採算性の推移のグラフを見て、幸運にも利用者数が伸びてきて現時点でだいたい4・5千万位の損益分で、それを初年度に頂いて、あとは3年位事業改善をしてゼロベースに戻していくところを、少し好意的に捉えました。
【副委員長】	確かにもっと具体的に、という通りですが、収支一覧表では想定範囲内で黒字になり、赤字が出た場合の対応、旅客安全性の向上への取組み、利用促進への取組みといった施策は、それなりに記載があった事実もあり、高めの評価にしました。
【委員3】	事業採算性で挙げられたことに特筆すべきものは確かにない印象です。確かに収益向上の根拠資料が無く、利用者が増えていくのか見えてこないのです。これは二次審査のプレゼンテーションで特に訊きたいことです。
	審議事項（3）二次審査の事業者決定について
【委員長】	以上を踏まえまして、提案者2を一次審査の合格者にしてよろしいでしょうか。
【各委員】	（一同「はい。」）
【事務局】	ご決定ありがとうございました。では合格者には結果を通知させていただきます。
	審議事項（4）二次審査の進め方について
【事務局】	（資料4、資料5を説明、質疑なし）
【委員長】	当日に質問することを予め挙げますと、車両購入費のこと、支出減のこと、それと収入が増える根拠についての3件ですね。もちろんそれ以外の質問もいただいて。
【事務局】	次回の委員会は10月17日午後3時から、今回と同じ512会議室で行います。
【委員長】	（閉会の挨拶）